太宰府人物志

資料室だより㊹

源基綱

源基綱（1049～1116年）は、歌人であり、かつ琵琶の名手としても有名であった源経信（1016～1097年）の息男です。基綱自身もまた父の流派を受け継ぎ、琵琶の上手とされています。

基綱は、永久4年（1116年）1月30日、大宰権帥に任命されますが、大宰府着任後ほどなくした同年12月30日、大宰府において薨じています。数年前、この基綱に関わる史料について、意外なところから情報が入ってきたのです。

当時、滋賀県教育委員会が調査されていた金剛輪寺所蔵大般若波羅密多経の奥書に「永久四年十二月廿三日奉書了　散位源敦経／大宰府東対書之」（巻261）、また「永久四年十二月廿九日奉書了　散位源敦経／於西府東対書之」（巻262）と記されていたのです。ここにみえる源敦経は基綱の息男です。これらによれば、敦経による写経が「大宰府東対」「西府東対」（この両者はおそらく同じ場所のことでしょう）で行われたことが知られるのです。とすれば、敦経は父基綱の大宰府下向に同行したか、あるいは後述する祖父経信と父基綱の場合のように、基綱の病のために、敦経が大宰府へ下向したのかもしれません。また、その年紀も永久4年12月23日、29日ですから、上述の着任・死没の経緯とも矛盾しません。

さて、ここにみえる「大宰府東対」「西府東対」はどういう場所かという点について、まず想起されるのは寝殿造り邸宅の東対屋でしょう。このことを考えるうえでやや参考となるのが、『朝野群載』20の記事と思われます。ここでは宋商李佐が、先年、「宰府御館」において、基綱に漢詩数首を献じたと語っています。ここにいう「先年」とは基綱が嘉保元年（1096年）7月、当時大宰権帥であった父経信の病により鎮西へ下向したときのこととされています。つまり、ここにみえる「宰府御館」に「東対」の存在を想定するのです。そう考えてよければ、大宰府研究の側から見ると、そうした館に「東対」と呼ばれるような一画が存在したことを示すものともいえ、きわめて貴重であるといえるでしょう。ただ「宰府御館」がどこにあったかについては、よくわかっていません。今後の調査に期待したいと思います。

市史資料室　重松　敏彦